

# 10 やまぐち働き方改革推進 プロジェクト

## 概要

誰もが県内での就職の希望が叶い、その仕事を充実させ、家庭や地域での生活も楽しむことができる社会を目指す「働き方改革」を推進

## 重点策

- 34 働き方改革の推進
- 35 若者に魅力のある職場環境づくりの推進
- 36 M字カーブの解消に向けた女性就業支援の強化
- 37 高齢者、障害者等が希望に応じて働き続けられる環境づくりの推進

### (1) 成果指標の状況・県民実感度調査の結果

成果指標	進捗状況	指標数	主な指標		
	★★★★★ (目標を達成)				
★★★★ (計画を上回る)					
★★★ (ほぼ計画どおり)		3	「誰もが活躍できるやまぐちの企業」認定企業数 等		
★★ (計画を下回る)		1	民間企業における障害者実雇用率		
★ (計画から大幅に遅れ)		1	インターンシップ参加学生数		
— (数値が未公表)		2	25歳から44歳までの働く女性の割合 等		

  

県民実感度調査 (%)	調査項目	そう思う	どちらかいない	そう思わない
		長時間労働の縮減や、仕事と子育て・介護等が両立できる環境整備など、「働き方改革」の取組が進んでいる	18.4 (11.2)	44.6 (43.9)
	若者の県内就職・定着に向けた支援が進んでいる	17.7 (14.2)	42.3 (43.7)	34.3 (38.3)
	女性が希望に応じて働き続けることができる環境づくりが進んでいる	15.2 (10.9)	44.4 (49.0)	34.5 (36.4)
	高齢者が希望に応じて働き続けることができる環境づくりが進んでいる	17.6 (14.3)	41.8 (45.8)	35.1 (36.0)

※ ( ) 内は昨年度数値

### (2) 今後の展開の方向等

主な取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 働き方改革を推進するため、職場リーダーの養成や企業への専門コンサルタントの派遣により、実践モデル創出に取り組み、<b>全国的なモデルとなる成功事例</b>が誕生。</li> <li>○ 社会保険労務士等、企業に身近な民間の専門家を対象に、働き方改革のコンサルティング研修を実施し、本県独自の「<b>やまぐち働き方改革アドバイザー</b>」として養成、登録。</li> <li>○ 未就業の<b>女性・シニアの就業を促進</b>するため、若者就職支援センターに「<b>シニア・女性就職支援コーナー</b>」を設置(H30.8)し、名称を「山口しごとセンター」に改称。</li> <li>○ <b>女性の職域拡大や就業継続</b>に取り組む企業を支援するため、女性専用トイレの整備等、働きやすい職場環境づくりのための「<b>女性活躍促進施設整備補助金</b>」を創設。</li> </ul>
展開の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人手不足の克服や長時間労働規制への対応のため、働き方改革実践モデルの創出やアドバイザーによる県内企業への横展開について、引き続き、強力で推進する必要がある。</li> <li>○ ハローワークや県内の就労支援機関などが緊密に連携し、女性・シニアの未就業者にアプローチすることにより、就業意欲の喚起とマッチングを積極的に推進する必要がある。</li> </ul>

### (参考) 令和元年度の主な新規・拡充取組

#### 新 女性・シニア新規就業促進事業

山口しごとセンターを中心に、女性・シニアの就業意欲喚起やマッチングなどの支援を一体的に行い、希望に応じた就業を促進

# 11 快適な暮らしづくり推進 プロジェクト

## 概要

身近な生活環境の快適さ、暮らしやすさを高め、誰もが実感できるように、都市公園の新たな利活用、生活交通の維持や充実、利便性・安全性の高い道路網の整備、空き家対策、地球温暖化対策や廃棄物対策、自然環境の保全などに取り組む

## 重点施策

- 38 快適で住みやすい生活環境づくりの推進
- 39 人と自然が共生する環境にやさしい県づくりの推進

### (1) 成果指標の状況・県民実感度調査の結果

成果指標	進捗状況	指標数	主な指標		
	★★★★★ (目標を達成)				
★★★★ (計画を上回る)					
★★★ (ほぼ計画どおり)		2	県立都市公園における民間活力の導入件数 等		
★★ (計画を下回る)					
★ (計画から大幅に遅れ)		2	緩和する主要渋滞箇所数、一般廃棄物のリサイクル率		

  

県民実感度調査 (%)	調査項目	そう思う	どちらか知らない	そう思わない
	暮らしを支える道路網の整備や公共交通機関の利便性向上、都市公園の利用促進など、快適な生活環境づくりのための取組が進んでいる	34.9 (31.2)	34.8 (37.1)	24.6 (28.3)
	再生可能エネルギーの導入促進などの地球温暖化対策の取組が進んでいる	20.8 (17.5)	49.3 (49.9)	23.9 (28.3)
	廃棄物の削減に向けたリサイクルなどの対策や廃棄物の適正処理の取組が進んでいる	35.3 (40.7)	41.3 (39.3)	17.6 (16.6)
	自然環境の保全・活用に向けた取組が進んでいる	24.2 (22.5)	50.7 (52.6)	18.7 (20.4)

※ ( ) 内は昨年度数値

### (2) 今後の展開の方向等

主な取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 山口ゆめ花博を契機に民間事業者等が設立した「山口きらら博記念公園活性化協議会」が、イベント「ゆめ花マルシェ wam」を企画する等、<b>都市公園の新たな利活用</b>への動きが活発化。</li> <li>○ スマートフォンなどからバスの運行状況がリアルタイムで確認できる<b>バスロケーションシステム</b>の<b>導入支援</b>を、県内<b>バス事業者2社</b>に対して実施。</li> </ul>
展開の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 民間事業者等による都市公園の新たな利活用を、より一層進めていく必要がある。</li> <li>○ 地域交通の更なる利便性向上に向け、路線バスへの交通系 IC カードの早期導入に取り組む必要がある。</li> <li>○ 再生可能エネルギーの導入を促進するためには、今後、再エネ、蓄電池やEVのエネルギーの有効活用などを検討する必要がある。</li> </ul>

### (参考) 令和元年度の主な新規・拡充取組

#### 新 ゆめの未来公園づくり推進事業 (令和元年度6月補正事業)

公園の新たな利活用を推進するため、民間事業者による公園での自立的かつ継続的な活動に向けた体制づくりや環境整備等を支援するとともに、子どもの育ちを支える公園づくりに向けた取組を実施

#### 拡 ぶちエコやまぐち推進事業

地球温暖化対策の一層の推進を図るため、「ぶちエコやまぐち」を合言葉に、省・創・蓄エネの取組を一体的に推進

# 12 新時代を創造する人材育成 プロジェクト

## 概要

学校や地域での学びを通じて、子どもたちが郷土への誇りと愛着をもち、知・徳・体の調和がとれた生きる力を身に付け、夢や志を育むことにより、地域や社会の課題を解決する力を育てる教育を推進

## 重点策

- 40 「地域教育力日本一」の取組の充実
- 41 きめ細かな教育の推進
- 42 豊かな心・健やかな体の育成
- 43 明治 150 年から未来へつなぐ人材の育成

### (1) 成果指標の状況・県民実感度調査の結果

成果指標	進捗状況	指標数	主な指標		
	★★★★★ (目標を達成)				
★★★★ (計画を上回る)		2	県立高校等におけるコミュニティ・スクール導入校の割合 等		
★★★ (ほぼ計画どおり)		5	勉強が「好き」「どちらかといえば好き」である児童生徒の割合 等		
★★ (計画を下回る)		1	1,000 人当たりの不登校児童生徒数		
★ (計画から大幅に遅れ)		1	大学生等の県内就職割合		

  

県民実感度調査 (%)	調査項目	そう思う	どちらか知らない	そう思わない
		コミュニティ・スクールが中心となり、学校・家庭・地域が連携・協働して、子どもたちの学びや育ちを見守り支援する取組が進んでいる	39.2 (34.0)	40.1 (45.2)
	35 人学級や少人数指導など、子どもたちの学力向上に向けたきめ細かな学習指導ができる体制の整備が進んでいる	37.6 (28.2)	41.7 (50.5)	13.7 (16.0)
	特別支援教育の推進に向け、きめ細かな学習指導ができる体制の整備が進んでいる	29.7 (22.6)	48.6 (55.2)	14.3 (16.3)
	いじめ、不登校対策など、子どもたちの豊かな心の育成に向けた取組が進んでいる	19.4 (14.9)	49.1 (55.1)	24.1 (24.6)
	特色ある学校づくりなど、子どもたちの豊かな学びを支える教育環境の整備が進んでいる	23.0 (18.0)	50.2 (55.1)	19.3 (21.5)
	大学などが参画した地域づくり活動など、大学などによる地域貢献や地域活性化の取組が進んでいる	23.6 (21.0)	46.8 (48.2)	22.2 (25.5)

※ ( ) 内は昨年度数値

### (2) 今後の展開の方向等

主な取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>県立高校 16 校にコミュニティ・スクールを導入</b>。県立高校等への<b>導入率 62.3%</b> (H30 年度) を達成。(目標値: 100%(R4 年度))</li> <li>○ 生徒の基本情報、成績処理、出欠管理、保健関係情報など、統合して管理・処理し、資料作成等を効率的に行う<b>統合型校務支援システムの導入</b> (R1.4 月:1 校、9 月:8 校導入) や、印刷業務等の学校の事務的業務を補助する<b>学校業務支援員の配置支援</b> (10 市町 65 人) など、教育環境の充実に向けた取組を実施。</li> </ul>
---------	--

<p>主な取組・成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今年度から新たに思春期グローイングハートプロジェクト事業を立ち上げるなど<b>心の教育の充実</b>を推進するとともに、<b>いじめ</b>や<b>問題行動等</b>の<b>早期解決</b>に向けて、新たに<b>SNS等を活用した連絡体制を構築</b>。</li> <li>○ トップリーダーによる講義・対話セッション、ワークショップ・課題解決プランの検討、各地の若者との意見交換など、<b>若者が主体的に考え行動</b>することを学ぶ「<b>やまぐち未来維新塾</b>」(R1.8月)を<b>開催</b>。</li> <li>○ 今後の本県における<b>人づくり施策について検討</b>するため、県内の有識者で構成する「<b>山口県新たな時代の人づくり会議</b>」(第1回：R1.5月)や、県外有識者と知事とが意見交換を行う「<b>新たな時代の人づくりトークセッション</b>」(第1回：R1.7月)を開催。</li> </ul>
<p>展開の方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域連携教育の推進の核となる人材の育成に務めるとともに、コミュニティ・スクールを導入した県立高校において学校・地域の課題解決に向けた取組を推進する必要がある。</li> <li>○ 確かな学力の定着と向上に向け、「やまぐち型地域連携教育」の取組を基盤とし、①各学校の「組織力」の充実、②教員の「授業力」の向上、③学校・家庭・地域の「連携力」の強化の3つの視点からの取組を強化する必要がある。</li> <li>○ キャリア教育の充実に向け、地域の人材や教育資源を活用した体験活動の充実、学校における働き方改革に向けた取組等を引き続き実施する必要がある。</li> <li>○ いじめ・不登校等生徒指導上の諸課題への取組の強化や、子どもたちの元気を創造する取組を引き続き実施する必要がある。</li> <li>○ 若者の「志」や「行動力」を育む取組や、AI等を活用して、新たな価値を創造する人材の育成に取り組む必要がある。</li> </ul>

(参考) 令和元年度の主な新規・拡充取組

<p><b>新</b></p>	<p><b>新時代を創造する人づくり推進事業</b>      新たな時代を見据えた人づくりを推進するため、明治 150 年を契機とした人材育成の取組を活かし、山口県だからこそその人づくり施策を構築するとともに推進体制を整備</p>
<p><b>新</b></p>	<p><b>思春期グローイングハートプロジェクト事業</b>      心の専門家であるスクールカウンセラーによる「心理教育プログラム」の実施により、学校における心の教育を一層充実させ、未来の山口県を切り拓いていく子どもたちの「心」を育成</p>

13

# 人を豊かにする環境づくり推進 プロジェクト

概要

県民誰もが、何歳になっても知識や技能を高めて自らを成長させ、その識見や技術を次代を担う人材の育成に活かしていけるよう、生涯学習やスポーツ・文化活動に取り組む環境を整備

重点策

- 44 多様なライフスタイルに応じた生涯学習の推進
- 45 豊かな心身を育む文化・スポーツの振興
- 46 明治 150 年を契機とする後世への歴史の継承

## (1) 成果指標の状況・県民実感度調査の結果

成果指標	進捗状況	指標数	主な指標			
	★★★★★ (目標を達成)					
	★★★★ (計画を上回る)	1	県民のスポーツ実施率 (週 1 回以上)			
	★★★ (ほぼ計画どおり)	1	県立美術館の入館者数(再掲)			
	★★ (計画を下回る)					
★ (計画から大幅に遅れ)						
県民実感度調査 (%)	調査項目			そう思う	どちらでもない	そう思わない
	生涯学び続けるための地域における多様な学習の機会や、自らのスキルアップのための学び直しの機会が充実している			24.5 (18.2)	48.2 (50.5)	20.7 (25.9)
	文化・芸術活動やスポーツ活動が盛んに行われている			36.5 (32.1)	39.2 (43.8)	17.9 (19.4)

※ ( ) 内は昨年度数値

## (2) 今後の展開の方向等

主な取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>生涯学習情報提供システム</b> (かがやきネットやまぐち) の<b>学習情報の充実</b>(H30 年度情報登録件数: 73,742 件) 、生涯学習の推進に寄与する<b>社会教育主事有資格者</b>の養成に向けた支援や資質向上のための<b>研修を実施</b>。</li> <li>○ 県内で<b>文化活動</b>を行う方たちの情報を一元化した<b>人材バンクを創設</b>し、文化・スポーツイベント等での発表・活躍の機会創出をコーディネート。<b>SNS</b> 等で人材バンク登録者の<b>活動を発信</b>。</li> <li>○ 総合型クラブの育成や<b>地域スポーツフェスタ</b>の開催、「<b>我がまちスポーツ</b>」の実施等を通じて、県民の<b>スポーツ実施率が向上</b>(H28 年度: 29.3% ⇒ H30 年度: <b>40.5%</b>)。</li> </ul>
展開の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県民が主体的に学習に取り組むことにより社会の中で充実した生活を送ることができるよう、生涯学習情報や学習機会の提供など、生涯学び続けることができる環境づくりを推進する必要がある。</li> <li>○ 文化芸術団体の活躍の場づくりや、県民の文化に親しむ機会を促進するため、人材バンクの登録促進や更なる活用に向けて取り組む必要がある。</li> <li>○ 県民誰もが生涯にわたり、身近な地域で気軽にスポーツに親しむことができるよう、スポーツ交流・元気県づくりの推進に向けた取組を一層充実させる必要がある。</li> </ul>

## (参考) 令和元年度の主な新規・拡充取組

### 若者が活躍する競技スポーツ推進事業

全国や世界で活躍する選手を輩出するため、将来を担う有望なジュニア選手の発掘から一貫した育成強化、指導者養成、スポーツ医科学の活用等を総合的に推進

# 14 誰もがいきいきと輝く地域社会実現 プロジェクト

## 概要

年齢や性別、障害の有無にかかわらず、県民一人ひとりが持てる力を存分に発揮することができるよう、様々な活動の機会づくりや機運醸成などにより、誰もがいきいきと活躍できる地域社会を実現

## 重点策

- 47 県民活動の活発化による地域の絆づくりの推進
- 48 女性が輝く地域社会の実現
- 49 高齢者・障害者等が活躍する地域社会の実現

### (1) 成果指標の状況・県民実感度調査の結果

成果指標	進捗状況	指標	主な指標		
	★★★★★ (目標を達成)				
★★★★ (計画を上回る)		1	あいサポート企業・団体数		
★★★ (ほぼ計画どおり)		4	「あいかさねっと」等を通じたボランティア活動マッチング数 等		
★★ (計画を下回る)		2	地域生活支援拠点を整備した市町数 等		
★ (計画から大幅に遅れ)					
— (数値が未公表)		2	25歳から44歳までの働く女性の割合(再掲) 等		

  

県民実感度調査 (%)	調査項目			
		そう思う	どちらでもない	そう思わない
	NPO、ボランティアなどによる県民活動や住民による見守り活動が活発に行われている	35.5 (26.4)	45.4 (48.8)	14.3 (19.7)
	男女が性別にかかわらず、個性や能力を発揮できる社会づくりが進んでいる	19.2 (12.6)	52.8 (52.6)	23.3 (29.9)
	高齢者などのシニアが、スポーツ・文化活動や社会貢献活動などに活躍できる社会づくりが進んでいる	35.8 (33.1)	43.4 (46.0)	16.6 (17.1)
	障害のある人に対する理解が進み、障害のある人が就労したり、スポーツ・文化活動を行うことができる社会づくりが進んでいる	28.4 (21.9)	48.1 (51.1)	18.7 (22.6)
一人ひとりの人権が尊重されている	30.2 (29.3)	49.1 (52.2)	14.8 (14.3)	

※ ( ) 内は昨年度数値

### (2) 今後の展開の方向等

主な取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>県民活動の裾野を拡大</b>するため、全県での「ボランティア・チャレンジ」や若者を対象としたボランティアイベント、参加体験型ボランティアなどを実施。あいかさねっと等により、<b>ボランティア活動マッチング数</b>は増加。 208人(H29年度) ⇒ <b>281人</b>(H30年度)</li> <li>○ 高齢者が地域を支える担い手となるよう、多様で主体的な社会参画を推進するとともに、障害に対する県民の理解を深めるため、企業・団体・学校等と連携した「<b>あいサポーター</b>」等の<b>養成</b>に取り組み、<b>障害者の地域生活への支援</b>の充実を企画。 あいサポート企業・団体数 116団体(H29年度) ⇒ <b>172団体</b>(H30年度)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県民活動の拡大を図るため、山口ゆめ花博の成果を活かした県民活動の定着や活発化、県民活動団体と企業の協働等を促進する必要がある。</li> <li>○ 元気なシニアが地域や産業を支える担い手として活躍できる環境の整備を進めるとともに、様々な障害に対する理解を進め、障害者の就労やスポーツ・文化活動を促進・支援する取組の充実が必要である。</li> </ul>
展開の方向	

### (参考) 令和元年度の主な新規・拡充取組

#### 新 県民ゆめはなアクション推進事業 (令和元年度6月補正事業)

県民活動の活発化を図るため、花博のボランティア等への情報発信、マッチング支援等を実施

#### 新 地域共生社会推進事業

年齢や性別、障害の有無によらず、誰もが安心していきいきと暮らしていける地域共生社会を目指した取組の推進

# 15 安心の医療・介護充実 プロジェクト

## 概要

県民が、住み慣れた地域で必要に応じて、適切な医療・介護サービスを受けられることができ、日常生活の質を維持できるよう、医療・介護の提供体制を整備

## 重点施策

50 医療提供体制の充実

51 介護提供体制の充実

### (1) 成果指標の状況・県民実感度調査の結果

成果指標	進捗状況	指標数	主な指標		
	★★★★★ (目標を達成)				
	★★★★ (計画を上回る)	2	住民が主体的に介護予防に資する活動を行う「通いの場」の数 等		
	★★★ (ほぼ計画どおり)	3	県内の専門研修プログラム登録者数 等		
	★★ (計画を下回る)				
★ (計画から大幅に遅れ)					

  

県民実感度調査 (%)	調査項目	そう思う	どちらともいえない	そう思わない
	地域で医療サービスを受けられる体制の整備が進んでいる	35.4 (32.7)	39.9 (39.8)	20.7 (23.5)
	医療や介護が必要になっても、高齢者が地域で安心して生活できる体制の整備が進んでいる	26.7 (21.0)	41.0 (43.5)	28.5 (32.0)

※ ( ) 内は昨年度数値

### (2) 今後の展開の方向等

主な取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医師修学資金貸付による<b>公的医療機関勤務医の確保</b>や、臨床研修医・専攻医確保に向けた広報活動の実施や研修体制への支援を図ったほか、<b>歯科医師、薬剤師等の多職種連携</b>による<b>医療の質の向上</b>に向けて、各種研修会の開催や広報活動を実施。</li> <li>○ 地域住民が主体的に介護予防に取り組む<b>「通いの場」の拡充</b>に向けての会議等を開催するとともに、<b>県福祉人材センターの機能強化</b>による<b>介護人材確保</b>の取組の充実化を実施。 <b>「通いの場」</b>の数 1,408 箇所(H29年度) ⇒ <b>1,563 箇所</b>(H30年度)</li> </ul>
展開の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域医療構想の実現に向けた関係者間の協議を促進するとともに、医師の地域・診療科偏在の解消に向けて継続的に取り組み、併せて、医療の質の向上に向けた歯科医師、薬剤師等との連携のさらなる促進が必要である。</li> <li>○ 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、在宅医療と介護を一体的に提供できる体制の充実や、認知症の人やその家族の視点に立った支援の充実、環境・体制づくりが必要である。</li> </ul>

### (参考) 令和元年度の主な新規・拡充取組

#### 拡 若手医師確保総合対策事業

特定診療科の医師不足や医師の地域偏在に対応するため、若手医師確保対策を総合的に推進

#### 拡 認知症施策総合推進事業

認知症の人の意見が尊重され、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らすことのできる環境・体制づくりを推進

# 16 県民一斉健康づくり プロジェクト

## 概要

高齢化が進む中においても、県民誰もが生涯を通じて健康に暮らし、元気で活躍できるように健康寿命延伸に向けた新たな戦略を展開

## 重点施策

- 52 健康づくり促進システムの構築
- 53 健康関連データに基づく多方面でのイノベーションの促進

### (1) 成果指標の状況・県民実感度調査の結果

成果指標	進捗状況	指標数	主な指標			
	★★★★★ (目標を達成)					
★★★★ (計画を上回る)		2	県民のスポーツ実施率(再掲) 等			
★★★ (ほぼ計画どおり)		1	健康寿命			
★★ (計画を下回る)						
★ (計画から大幅に遅れ)						
県民実感度調査 (%)	調査項目			そう思う	どちらでもない	そう思わない
	生活習慣病の予防など、県民の健康づくりに向けた対策が進んでいる			35.4 (31.3)	44.2 (47.5)	16.2 (17.4)

※ ( ) 内は昨年度数値

### (2) 今後の展開の方向等

主な取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「やまぐち健幸アプリ」の開発と運用により、健康づくりに関する個人の取組の「見える化」「日常化」を図るとともに、健幸アプリの普及による<b>個人の健康行動データ蓄積</b>に向けた<b>基盤を整備</b>。(健幸アプリダウンロード数：<b>11,000件</b>(R1.7月末))</li> <li>○ 企業を通じた働く世代への健康増進の働きかけを促す「<b>やまぐち健康経営企業認定制度</b>」の<b>取組拡大</b>などにより、県民の<b>主体的な健康づくりを支援</b>する仕組みの充実化。(登録企業：234社、うち認定：76社(H30年度末時点))</li> </ul>
展開の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県全体で健康づくりを支える社会環境の整備に向け、「やまぐち健幸アプリ」「やまぐち健康経営企業認定制度」などの連携した展開により、働く世代による健康づくりを一層促進することが必要である。</li> <li>○ 生活習慣病の発症及び重症化予防に向けて、減塩や野菜摂取量の増加に資する取組の充実や、特定健診受診率向上に向けた保健・医療関係者等との連携による取組強化が必要である。</li> </ul>

### (参考) 令和元年度の主な新規・拡充取組

#### 新 やまぐち健幸プロモーション推進事業

「やまぐち健幸アプリ」を活用したプロモーションの展開による、健康寿命延伸に向けた全県的な機運の醸成



# 17 災害に強い県づくり推進 プロジェクト

## 概要

大規模な自然災害等の発生に備え、災害に強い県づくりを進めるため、防災対策や危機管理体制の充実、社会インフラの老朽化対策や公共施設等の耐震化など、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を推進

## 重点策

- 54 防災・危機管理対策の強化
- 55 生活・社会基盤の安全対策の強化

### (1) 成果指標の状況・県民実感度調査の結果

成果指標	進捗状況	指標数	主な指標			
	★★★★★ (目標を達成)					
★★★★ (計画を上回る)		1	大規模盛土造成地マップ公表市町数			
★★★ (ほぼ計画どおり)		4	危険ため池の整備箇所数、洪水浸水想定区域の指定河川数 等			
★★ (計画を下回る)		1	指定避難所における「避難所運営の手引き」作成数			
★ (計画から大幅に遅れ)		2	高潮浸水想定区域に指定された市町数、橋梁の耐震補強実施数			
県民実感度調査 (%)	調査項目			そう思う	どちらでもない	そう思わない
	地域における防災活動が活発になっている			34.3 (25.3)	43.3 (47.2)	17.8 (23.7)
	大雨、台風、地震などに対する防災・減災対策やインフラの老朽化対策が進んでいる			27.1 (18.1)	45.3 (47.0)	23.3 (30.7)
	学校やホテル・旅館、住宅など、建築物の耐震化が進んでいる			30.5 (23.6)	42.8 (42.4)	22.0 (30.2)

※ ( ) 内は昨年度数値

### (2) 今後の展開の方向等

主な取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 被災者支援業務を県内で共通化する<b>被災者生活再建支援システム</b>の運用開始(H31.4)。</li> <li>○ 住民主体の避難所運営に向けた支援や自主防災組織の研修等の実施、<b>住民避難行動促進本部</b>を設置 (H31.4) し、<b>率先避難モデル事業</b>を展開。</li> <li>○ 大規模自然災害に備え、<b>道路・橋梁、河川・ダム、砂防堰堤</b>などの<b>整備</b>や公共施設の<b>老朽化対策</b>や<b>耐震化</b>を実施。</li> <li>○ 宅地の耐震化に向けた<b>大規模盛土造成地のマップ</b>の作成・公表。<b>9市町</b> (H31.3 時点)</li> </ul>
展開の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大規模災害等の発生に備え、住民の防災意識の向上や主体的な防災活動の推進などのソフト対策や、河川改修、砂防・治山堰堤の整備などのハード対策を、引き続き、着実に促進していく必要がある。</li> <li>○ 公共施設等の急速な老朽化に対応するため、長寿命化計画に基づく予防保全的な維持管理を推進するとともに、大規模災害に備えた公共施設等の耐震化を、引き続き、推進していく必要がある。</li> </ul>

### (参考) 令和元年度の主な取組

- 新** 平成30年7月豪雨災害を教訓とした災害対策の実施
  - 住民の避難行動が自発的に行われるための体制づくりや防災意識の底上げに向けた取組を実施
  - 住民参加型土砂災害ハザードマップの作成支援
  - 国の対策に沿って、今後起こりえる大規模な自然災害等に備えた河川改修等の防災・減災対策を集中的に実施 (防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策)
- 新** 倒壊の危険性が高いブロック塀等の除去経費への補助
  - 避難路沿道等にある危険なブロック塀等の除去に係る補助制度を新たに創設

# 18 暮らしの安心・安全確保 プロジェクト

## 概要

県民が安心・安全に暮らせる生活を実現するため、食や消費生活の安心・安全の確保、犯罪や事故を防ぐ取組などを推進

## 重点策

- 56 食や消費生活の安心・安全の確保
- 57 犯罪や暴力から県民を守る対策の推進
- 58 地域に密着した安全・安心活動の推進
- 59 交通事故から県民を守る対策の推進

### (1) 成果指標の状況・県民実感度調査の結果

成果指標	進捗状況	指標数	主な指標		
	★★★★★ (目標を達成)				
★★★★ (計画を上回る)		3	うそ電話詐欺の被害件数 等		
★★★ (ほぼ計画どおり)		2	消費者安全確保地域協議会の設置市数 等		
★★ (計画を下回る)					
★ (計画から大幅に遅れ)					
県民実感度調査 (%)	調査項目		そう思う	どちらでもない	そう思わない
	食品の検査や消費生活センターにおける相談など、食や消費生活の安心・安全の確保に向けた対策が進んでいる		29.2 (20.8)	53.7 (58.9)	12.8 (15.6)
	安全で安心して暮らせる社会づくりに向けて、犯罪や交通事故の防止に向けた対策が進んでいる		30.9 (23.6)	48.5 (53.0)	16.5 (19.2)

※ ( ) 内は昨年度数値

### (2) 今後の展開の方向等

主な取組・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>うそ電話詐欺</b>の未然防止に向けた直接的な広報啓発（注意喚起）活動や金融機関等に対する対応要領の周知・徹底などにより、<b>被害件数を減少</b>。 131件(H29) ⇒ 100件(H30年)</li> <li>○ 県民がサイバー空間を安全に利用できるよう、被害防止に向けた<b>サイバーセキュリティ対策</b>に関する<b>講習会を実施</b>。H29年：350回 ⇒ H30年：451回（計画を上回る頻度で実施）</li> <li>○ 悪質・危険なドライバーに対する交通指導取締りの強化や各季の交通安全運動の継続的な推進により、<b>人身事故発生件数(10万人当たり)を減少</b>。H29年：352.8件 ⇒ H30年：290.2件</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食の安心・安全の確保のため、HACCPの導入や食品表示適正化等に向けた事業者の自主的な取組、県民の食品安全に関する理解等の促進が必要である。</li> <li>○ 県内の刑法犯認知件数は減少傾向にあるが、全国では子供や高齢者が被害者となる事件が発生しているため、自主防犯意識の高揚に向けた取組の継続的な推進が必要である。</li> <li>○ 地域住民の安全・安心を確保するため、地域の実態に即した活動や治安基盤の整備に向けた更なる取組が必要である。</li> <li>○ 悲惨な交通事故を1件でも多く減少させるため、県民の交通安全意識を高める対策などの継続的な推進が必要である。</li> </ul>
展開の方向	

### (参考) 令和元年度の主な新規・拡充取組

#### 新 HACCP 導入促進事業

食品衛生監視員や学識経験者等による講習会の開催、やまぐち HACCP 取組事業所シールの配布

#### 新 エシカル消費推進事業

エシカルガイドブック等の作成・配布、体験型エシカル消費啓発イベントの実施

# 19 人口減少社会を生き抜く地域づくり プロジェクト

## 概要

人口減少下にあっても活力を維持・創出し続ける持続可能な地域づくりを進めるため、本県の特性を活かしたコンパクトなまちづくりや、中山間地域における「やまぐち元気生活圏」づくりなどの取組を推進

## 重点策

- 60 快適でにぎわいのあるまちづくりの推進
- 61 「やまぐち元気生活圏」の形成の加速化
- 62 中山間地域でのビジネスづくりの推進

### (1) 成果指標の状況・県民実感度調査の結果

成果指標	進捗状況	指標数	主な指標			
	★★★★★ (目標を達成)					
★★★★ (計画を上回る)		2	やまぐち元気生活圏づくりに取り組む地域数 等			
★★★ (ほぼ計画どおり)		1	立地適正化計画を策定した市町の数			
★★ (計画を下回る)						
★ (計画から大幅に遅れ)						
県民実感度調査 (%)	調査項目			そう思う	どちらともいえない	そう思わない
	まちの拠点に、生活に必要な福祉・商業施設などを集約するコンパクトなまちづくりが進んでいる			14.9 (16.5)	47.8 (46.1)	32.7 (33.1)
	中山間地域の暮らしを守り、地域づくりを支援する取組が進んでいる			11.9 (9.9)	46.9 (49.7)	36.9 (35.5)
	中山間地域の地域資源を活用して、農林漁業などの体験を行う地域交流など、新たなビジネスを行うための取組が進んでいる			11.4 (9.0)	50.0 (51.8)	34.0 (34.3)

※ ( ) 内は昨年度数値

### (2) 今後の展開の方向等

#### 主な取組・成果

- 市町や地域の主体的な取組に対して、大学生や専門家等の外部人材の活用や、地域の活力の創出を目的とする補助金などによる支援により、**やまぐち元気生活圏づくりに取り組む地域数が増加**。23 地域(H29 年度) ⇒ **48 地域**(H30 年度)
- 地域滞在型交流促進セミナーの開催や、担い手組織の立ち上げ支援などにより、**農山漁村交流滞在人口(年間)が 18.3 万人**(H29 年)となり年間目標を達成。(年間目標 14.9 万人)

#### 展開の方向

- 市町による質の高い立地適正化計画の策定や、計画の実現に向けた市町の取組等を促進することにより、快適でにぎわいのあるコンパクトなまちづくりを進める必要がある。
- やまぐち元気生活圏づくりの取組を県内各地に広げるとともに、将来にわたって地域住民が暮らし続けることができるよう、自立・持続可能な地域づくりを進める必要がある。
- 豊かな自然や文化等の地域資源を活用した都市と農山漁村の交流事業の促進や、農林水産物を活用した新商品開発や販路拡大により、中山間地域のビジネス・雇用の創出を図る必要がある。
- 山口県ゆかりの経営者のネットワーク等を活用し、本県の優れた立地環境等を広く発信するなど、戦略的な企業誘致を推進する必要がある。

### (参考) 令和元年度の主な新規・拡充取組

#### 新

#### 地域運営に経営の視点を導入した自立・持続可能な中山間地域の創造

地域経営を担う中核的人材の育成や、地域経営を担う組織の立ち上げに向けた支援体制の整備